

IV 懇談会展開資料及び手持ち資料

○プログラム（P 8～P 14）

「あなたはどこに立つ～日常生活の中にある『何気ない・悪意のない』差別に気づく～」

○懇談会で使用する資料

- ・事例カード（P 15～P 18）
- ・いろいろな差別のとらえ方（P 19）（配布資料）
- ・社会のなかでどこに立っているか、人権課題に対してどこに立つか（P 20）（配布資料）
- ・アンケート用紙（P 21）（回収）
- *差別解消三法関連資料（別紙）（配布資料）

○推進者参考資料

- ・「事例カード」解説資料（P 22～P 23）
- ・「障がいに関するカード」参考資料（P 24～P 27）
- ・「同性愛カップルは法律的に結婚できないカード」参考資料（P 28～P 30）
- ・「歴史的建造物を忠実に再現するためのエレベーターを設置しないカード」参考資料（P 31）

あなたはどこに立つ

～日常生活の中にある「何気ない・悪意のない」差別に気づく～

ねらい

- ・何気ない普段の会話や態度の中、無意識に人を傷つけ排除する言動があること、善意から「よかれと思って」したことが差別につながる場合があることに気づく。
- ・「何気ない」差別が社会的マイノリティの人たちをどのように傷つけ、どのような影響をもたらすのか、また、その背景にどんな社会があるのかについて知る。
- ・自分たちの身のまわりで「自覚なき差別」がないか考え、そうした場面に気づけるようになるとともに、問題点をどう伝え、地域や職場でどんな関係をつくりたいか考え、行動につなげる。

準備物

- ・模造紙 ・事例カード ・配布資料 ・アンケート ・鉛筆 ・マーカー

プログラムの流れ

1. 趣旨とルールの説明 (5分)・・・ねらいの説明など。
2. あなたは許せる？許せない？ (15分)・・・ウォーミングアップで、多様な価値観を知る
3. 話し合ってみよう YES NO (40分)・・・合意形成
4. あなたはどこに立つ (まとめ) (20分)

*時間は目安ですので、話し合いの状況等をみながら自由に設定してください。

時間	詳細な手順	留意点
5分	① 趣旨とルールの説明 (推進者) 今回は、「あなたはどこに立つ？」というテーマで、日常生活の中にある何気ない・悪意のない差別について取り上げます。 そして、そのことがどうして人を傷つけることになるのかを知り、社会にある課題に気づき、差別をなくすための行動を育んでいけたらと思います。 今回もワークショップ形式で学んでいきます。ワークショップというのは、推進者が答えを持っているのではなく、この場にいるみなさんでやりとりをしながら、考えを深めていく学び方です。 難しく思われる方も多いかもかもしれませんが、できるだけ身近なところから考えていきたいと思っています。正解があるわけではありません。みなさんには、ふだんの言葉で、自分の思うことをおしゃべりしていただけたらと思います。	●ねらいを読んで趣旨の説明をしてもいいです。

	<p>そのために、3つのお願いがあります。この場では、「参加・尊重・守秘」をルール(約束)としたいと思います。</p> <p>1つ目は「参加」です。 ぜひ積極的にこの場に参加していただきたいと思います。</p> <p>2つ目は「尊重」です。 学習の中で、参加者の皆さんどうしやわたしとの間で、いろいろなやりとりをします。そこでは「正解」や「期待された答え」はありません。できるだけ皆さんの考えを、みなさん自身の言葉で出し合っていただければと思います。いろいろな意見がでることと思いますが、それをお互いに尊重しあいましょう、というルールです。</p> <p>中には、自分とは正反対の意見や、考えもしなかった意見もあるかもしれません。それに無理やり同意する必要はありません。「違う」「おかしい」と否定するのではなく、理解を深めようとするというのが「尊重」という意味です。</p> <p>3つ目は「守秘」です。 意見を述べるときに、自分の経験から話される方があるかもしれません。一般論ではなく、そうしたご自身の具体的なことから話していただけるのは大歓迎です。ただ、そのお話は、この学習の枠組みの中、グループでの話し合いの関係性の中で出して下さったものですから、学習の場から持ち出さないようにしてください。自分の経験やできごとについて、誰に、どこまで、どんなふうに話すかを決められるのは、その人自身だけです。「いい話だから」といっても、勝手に紹介するのではなく、話すならその本人に確認してからにしてください。もちろん、学んだエッセンス、ご自分が学習を通して考えたことなどは、どんどん他の方に話して分かち合ってください。</p>	<p>●「参加」「尊重」「守秘」と提示する。</p>
<p>15分</p>	<p>②あなたは許せる？許せない？</p> <p>(手順) ●問題を読み上げ、参加者が移動(左右で許せる/許せない) 移動が困難な場合は、グー/パーで同時に手を挙げていただく。</p> <p>(推進者) みなさんが、人権について学ぶときに、「多様性を大切に」「いろいろな考え方を認め合いましょう」などのフレーズにふれたことがあると思います。一方、そうはいいながらも、違いを認め合うことが難しい場面もあるのが現実の生活だと思っています。</p>	<p>・日常生活の中である行動やできごとを、どう感じるのか。自分と他者の感じ方の違いを知る。</p>

これからする、ウォーミングアップは、境界線のワークというもので、日常生活の中である行動やできごとを、自分自身はどう感じるのか、自分と他者との感じ方の違いを知る活動をしたいと思えます。

自分の今の気持ちや日頃感じることに近いところへ移動してください。もちろん、正解はありませんし、テストではありませんので、気楽にやっていただいて結構です。

境界線のワーク問題

「あなたは許せる?許せない?」

- ・食事のときにお茶ではなく、ジュースを飲む。
- ・友だちが自分のタオルを勝手に使う。
- ・知り合いに本を貸したら、別の人にまた貸ししていた。
- ・自分のパンツを兄が勝手にはく。
- ・内輪の飲み会に、ある人がいきなり初対面の人を連れてきた。
- ・自宅に遊びに来た子どもの友達が、おやつを探して勝手に冷蔵庫をあける。(来客が勝手に冷蔵庫をあける)
- ・ペットボトルの飲み物を「一口もらうね」と飲まれる。
- ・息子の(自分の?)茶碗や箸を使う(使われる?)。
- ・初対面の人に呼び捨てにされる/あだなをつけられる。
- ・好きな芸能人のことを話したら、その人の悪口を話し出す。
- ・ある食べ物を苦手だと言ったら、「本当においしいのを食べたことがないだけ。今度、食べさせてあげる」と言われる。

=ワーク終了後=

(推進者)

ありがとうございます。

いかがでしたでしょうか?自分には許せないと思うことでも、他の人はOKだったり、また、その逆もあったと思います。

人によって、日常の生活の中でも、それぞれ感覚が違うということを確認していただけたと思います。そして、それはどちらも正解でも間違いでもないということは、いうまでもないことです。

ただ、そうした感覚の違う人が同じ場にいるとき、悪意はなくてもトラブルが起きることがあります。片方がよかれと思ってやったことが、相手にはイヤな場合があるのです。やった側は相手がイヤだと思っていることに気づかず、イヤだと思った側も悪気がないのが分かっているだけにイヤと言出しづらい。みなさんも、そうした経験があるのではないのでしょうか。

●全部の問題を出さなくても、何問かチョイスする。

●左記の問題以外に推進者が問題を考えてもよい。

●問題を選ぶ時・追加するときは、プログラム全体の流れをふまえて、意見が分かれそうなもの、単なる好みの違いではなく抵抗感を持つ人に配慮すべきかどうかを考慮されるものにする。

40分

③話し合ってみよう YES NO

(手順)

1. カードを読み、OKなのかNOなのかを話し合ってもらおう。
2. OK・NOの理由を考えてもらう。
3. 話し合った結果を紙に貼ってもらう。

(推進者)

先ほどの、ウォーミングアップで、人はそれぞれ感覚が違うということを確認していただけたと思います。

これからの活動は、カードにかかれたものが、OKなのかNOなのかみなさんと話し合っていたきたいと思います。

今からカードを読みますので、どの場所が適切か話し合いながら、貼って下さい。多数決ではなく、しっかりと理由を話し合いながら合意形成していただけたらと思います。

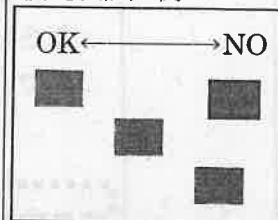
=ワーク終了後=

(推進者)

今まで、考えていただいたものは、言うてはダメという研修ではなく、自分の価値観、何をどう思っているのかを再認識することによって、相手を傷つけない、事態をより悪化させないことにつなげるためのものです。

- ・例えば・・・ということで、カードを何枚か説明する。

模造紙記入例



- カードは、時間や話し合いの状況をみながら、枚数を決める。
(全てしなくてもよい。)

- カードを何枚か紹介する

20分

④あなたはどこに立つか (まとめ)

(手順)

- ・資料を使って、さまざまな差別やマイクロアグレッション、中立の危うさについて説明をする

(推進者)

差別というと、「ある人が偏見に基づき、悪意をもって相手を傷つけたり不利益取り扱いをすること」と思われがちです。そのなかでも、近年は「ヘイトスピーチ」のようなひどい言動が問題と

- 資料配布

差別についての配布用資料

してとりあげられています。

人権啓発もすすみ、こうした差別的な言動をする人は多くありませんし、もしそんな人がいたら「それはダメ」と指摘する人も少なくないと思います。

ですが、こうした差別は「差別行為」や「個人的差別」といつて、いろいろある差別の一部分でしかありません。

ほかに、「実態的差別」や「制度的差別」といわれるものがあり、これらは社会のあり方とつながっていて、無意識のうちにもうけいれてしまっていることがしばしばあります。

また、ヘイトスピーチのような差別をナイフで刺されるという状況でたとえると、悪気のない差別は、紙で手を切って血も出ない、でも水仕事をすると痛いと思うそんな風に言えるのではないかと思います。一つひとつはたいしたことないのだけれど、下手をすると毎日それが積み重なる。これをマイクロアグレッション（小さな攻撃）といいます。どちらが大変とか深刻とかいうことではなく、質の違うものだと思います。

マイクロアグレッションの背景には、社会の中にある偏見やステレオタイプ、自分とは異なる集団に対する無理解や決めつけなどがあります。どれも、なかなか自覚されにくいものです。

マイクロアグレッションの難しさは、言った方は悪意がなく無自覚、場合によってはほめているつもりだったりすること、傷ついたほうも相手に悪気がないことが分かっているので言いづらいこと、といった点です。

そして、それでも思い切ってイヤだというと、「あれも差別、これも差別と細かい」「大げさに反応し過ぎ、繊細すぎるのでは」「そんなつもりはなかったのに、差別したかのように言うなんてひどい」といった反応がかえってきたりします。

例えば、「女の人でこれだけやるのすごいね～」という表現。これはマイクロアグレッションだといえますが、言った方は褒めるつもりだったり、言われた側も気づかないこともあります。女性の中でも、抵抗なく褒め言葉と思う人も中にいるかもしれません。

また、当事者自身が「自分の考えすぎかもしれない」と思ってしまい、違和感があっても言いづらい、もし言えば、「同じ女性の○○さんは、素直に褒め言葉と受け取っているのに」と責められ、個人の感覚の問題にされたり、女性同士の対立の図式になってしまったりします。

このように説明すると、難しく感じられる方もいらっしゃるかもしれませんが、「そういう言い方はイヤだ」と言われたときに、相手の感じ方の問題にせず、自分が無意識のうちにもっているイメージや決めつけがなかったかをふりかえること。

そして、「傷つけるつもりはなかったけど、イヤな思いをさせて悪かった」とわびることも大切です。

例えていうなら、大きなリュックを背負って、お店の商品を見ていたら、動いた拍子に飾ってあった置物に当たって壊してしまったようなもの。「背中の荷物が思ってたより大きかった！」と気づき、わざとではなくても壊したことに詫言ひするのと同じです。

そして、もうひとつ知っておいて欲しいのが「中立」ということの危うさです。

人権について学べば学ぶほどよく分からなくなって、もちろん差別をするつもりはないけれど、反差別の立場といっても戸惑うし、とりあえず「中立」の立場でいたい、という方がおられます。

「中立」というのは、ものごとのちょうど真ん中で、どちらの味方でもない、というイメージだと思います。

(紙テープを示し、真ん中を指す **図1**)

けれど、真ん中にいることは、ほんとうにどちらの味方でもない、と言えるでしょうか。

現実の社会には、さまざまな力関係があります。このラインも、平らに(水平に)にひかれているのではなく、天秤のようになっていて、強い側、力のある側に傾いている。

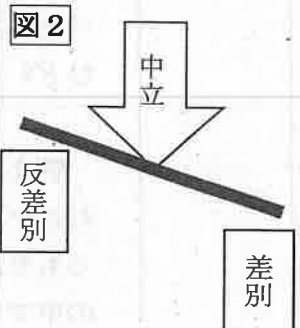
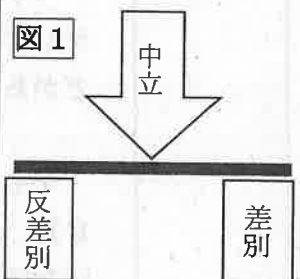
(紙テープを傾ける **図2**)

ですから、真ん中に立っているつもりが、坂道を転がるように傾いている側に寄ってしまいやすくなってしまいます。

この傾きは、社会のあり方・構造なので、自覚されにくいのがやっかいなところ。ですから、反差別の側に向かおうと意識しておくくらいでないと危ういのです。

例えば、イジメがおきているときに、どちらの言い分が正しいかよく分からないから、加害者にも被害者にも味方をしない、という立場をとることは、どんな結果につながるのでしょうか。

●中立の図を使って説明する。



●例えを入れた方が説明がわかりやすいと思います。